

Claude Codeのプライバシーと安全性に関する調査結果

利用規約・プライバシーポリシーの概要（全利用形態共通）

Claude Codeを利用するには、Anthropic社が定める商用利用規約およびプライバシーポリシーが適用されます。企業利用の場合、**Anthropicの商用利用規約**が該当し、これに基づき以下の点が保証されています：

- ・**入力コード・データの権利**：ユーザ（顧客）は自らが提供した入力（コードやプロンプト）の権利を保持し、生成された出力（回答コードなど）もユーザに帰属します¹。Anthropicはこれら**顧客コンテンツに対する権利を主張せず**、出力に関するいかなる権利もユーザに譲渡すると明記されています¹。
- ・**モデル学習への不利用**：Anthropicはサービス提供において得られた顧客コンテンツを、自社のAIモデルの訓練（学習）に利用しないことを契約上明言しています²。入力コードや会話内容がAnthropicのモデル再学習データセットに組み込まれることはありません。これはAnthropic公式のFAQやSlack向け説明においても繰り返し確認されている事項です³⁴。
- ・**データの機密性と目的外利用禁止**：商用規約上、ユーザが送信したコードやテキスト等の「顧客コンテンツ」はユーザの**機密情報**として扱われ、Anthropicはサービス提供目的以外に利用しない義務を負います⁵。Anthropicは顧客コンテンツを第三者に販売・共有したり（マーケティング利用等）、契約上許可された範囲を超えて保持・利用したりしないことがデータ処理契約(DPA)にも定められています⁶。また、Anthropic内部でも顧客データへのアクセスは業務上必要な担当者に限定され、関係者には厳格な守秘義務が課されています⁷⁸。
- ・**収集されるデータとプライバシー**：Anthropicのプライバシーポリシーによれば、Claudeに対する**入力内容（プロンプト）**およびそれに対する**出力**はサービス提供のために送信・処理され、Anthropic側に一時的に保存されます⁹。ユーザが入力に個人情報や社内機密を含めた場合、それも収集対象となりうるため注意が必要です⁹。また、ユーザがフィードバック（「良い回答」「悪い回答」の評価やバグ報告等）を送信した場合、その際の会話内容全体が**フィードバックデータ**として保存されることがあります¹⁰。フィードバックはサービス改善の目的で利用されますが、詳細は次節で触れます。
- ・**利用制限と利用ポリシー**：Anthropicは別途**Usage Policy（利用規定）**を設けており、違法または不適切な利用は禁止されています¹¹。大量の個人情報の投入や他人の著作物の不正使用など、規約違反行為が検出された場合、Anthropic側で利用停止などの措置を取る可能性があります。

なお、Claude Codeは**ベータ版**サービスとして提供されており、Anthropic商用利用規約上はベータ機能に該当します。そのため機能変更やポリシー更新が生じる可能性があります。ベータ版であっても上記の基本的なデータ取扱ポリシー（権利保障・機密保持など）は適用されます¹²⁴。現在Claude CodeやClaude Slackアプリは商用顧客向けに提供されており、エンタープライズ利用を前提とした契約・ポリシーとなっています。またSlack連携のClaudeアプリについてはEnterprise Gridプランのワークスペースでのみインストール可能であり、2024年現在追加費用なく提供されています¹³。

利用形態別のデータ取扱と特徴

Claude Codeは様々な形態（CLIツール、GitHub Actions連携、Slackボットなど）で利用できますが、**基本的なプライバシー保護の考え方は共通**しています。以下に各利用形態ごとのデータの流れや取扱い上の特徴を整理します。

Claude Code CLI (ターミナルツール)	ローカルの端末上でコマンド <code>claude</code> を実行し、対話形式でコード支援を行います。
→ データ送信先: ローカル環境からAnthropic社のクラウドAPIにコードや会話内容が送信され、クラウド上のAIモデルが処理します。
→ 保存と利用: Anthropicは対話内容やコードコンテキストをサービス提供のため一時的に保存しますが、約30日以内に自動削除されます¹⁴。この保持期間はサービス改善や不正検出の目的に限定されており、モデル学習には用いられません⁴。
→ 補足: CLI利用時、利用状況データの一部（コマンド使用状況やエラーログ等）がAnthropicのテレメトリサービス（StatsigやSentryなどの外部サービス）に送信されることがあります¹⁵。これらは機能改善や不具合追跡のためのもので、必要最小限の情報が収集されます。
Claude Code – GitHub Actions 連携	GitHubリポジトリにClaude Codeを組み込み、自動コードレビューやIssue対応を行う形態です（GitHub App経由で利用）¹⁶。
→ データ送信先: GitHubのワークフロー（GitHub Actionsランナー）上でClaude Codeが実行され、Pull RequestやIssueの内容・コード差分を読み取ってAnthropicのAPIに送信します。AIモデルによるコード生成・修正提案はAnthropic側クラウドで行われ、その結果がPRコメントや新たなコミットとしてGitHub上に出力されます¹⁷¹⁸。
→ 保存と利用: Anthropic側では送られてきたコードコンテキストや会話を一時的に処理・保存しますが、一定期間（30日程度）経過後に自動削除されます¹⁴。これらデータはサービス提供・改善以外の目的には使われず、モデル訓練にも利用されません²。
→ 補足: GitHub連携では「コードはGitHubのランナー上に留まる」設計になっており、Anthropicに送信されるのは必要なコンテキスト情報に限られます¹⁹。結果として、機密コードベース全体がAnthropic側に転送・保管されるわけではなく、あくまでAPI呼び出しに必要な部分のみが扱われます。また利用にはAnthropic APIキーが必要であり、Anthropic側ではAPIキーごとに顧客環境を隔離し管理しています。
Claude (Slack 連携版)	Slack用のClaudeボットをワークスペースに追加し、チャット経由でAIアシスタント機能を利用する形態です²⁰。（※コード専用ではなく一般的なClaude AIですが、プロンプト次第でコード生成も可能）
→ データ送信先: Slack上でユーザがメンションしたメッセージやDMの内容がAnthropicクラウドに送られ、AIが応答を生成して再びSlackに投稿します²¹。Claudeボットは@Claudeにメンションされたスレッド内のメッセージか、Claudeとの1対1 DMの内容のみを読み取ります²²。それ以外のチャンネルやDMの情報には一切アクセスしません²²。
→ 保存と利用: Slack経由の会話データもAnthropic側で一時的に収集されますが、長期間保持されることはなく、サービスの改善計画策定などのために限定的な期間保存されるのみです³。モデルの訓練には用いられないことが明言されています³。AnthropicはSlack上の会話データをプロダクト開発ロードマップ策定の参考程度に利用し、その後削除するとしています。
→ 補足: Slack自体にもメッセージ履歴として会話内容が残りますが、この管理（保持期間の設定やエクスポート可否）は各企業のSlackポリシーに依存します。Claudeアプリは現在Enterprise Gridプラン専用で提供されており、エンタープライズ向けSlackのセキュリティ機能（監査ログやカスタムデータ保持設定等）の下で利用されます。

各形態に共通して、**ユーザからAnthropicへのAPI通信はすべてTLS1.2以上で暗号化**されており、保存データも**AES-256による暗号化**で保護されています²³。Anthropicは収集したデータをサービス提供目的にのみ用い、規約や契約で許可されていない第三者へ提供することはありません⁶。またSlack連携やGitHub Actions等の統合機能を使用する場合でも、根底にあるAnthropicのプライバシーポリシー・利用規約の原則（データの非公開・非学習利用）は変わりません。

入力コード・データのモデル学習への利用有無

結論：Claude Codeに入力したコードや会話データがAnthropic社のモデル学習に利用される可能性は極めて低いです。公式情報によれば、**ユーザの入力や出力を用いてAnthropicの汎用AIモデル（Claude）を再訓練することは行わない**と明言されています²³。これはAnthropicの商用利用契約およびプライバシーFAQにおいて繰り返し確認できるポイントです。

- Anthropic商用利用規約では、「Anthropic may not train models on Customer Content from Services」と規定されており、サービス利用時に提供された**入力（コードやテキスト）および出力をモデル訓練データとして利用しないことが契約上保証されています**¹。
- ClaudeのSlackアプリに関するFAQでも、**Slack上での会話はモデルの学習には使われない**と明示されています³。同様に、Claude Code（CLIやGitHub経由の利用）についても、収集した対話データやフィードバックはモデル改善のための分析には用いられても、モデル自体の訓練素材には組み込まれない旨がドキュメントに記載されています⁴。
- Anthropicはユーザから提供されたデータを**モデル品質向上の参考（評価や不具合修正等）**にすることはありますが、その際も**個別の生成AIへの再学習ではなく**、内部の安全性向上システムや統計的分析に留めると説明しています²⁴²⁵。例えば、不適切な出力をユーザが報告した場合、その対話全体を社内で検証し、モデルのフィルタリング能力を強化する目的で**内部専用の安全フィルタモデルを訓練することはありえます**²⁶。しかし、これらはあくまで**安全対策モデルや評価目的**であり、ユーザのコードそのものが第三者に提供されたり、汎用LLMの知識に組み込まれたりすることはありません。
- **明示的なフィードバック提供時の取り扱い:** ユーザがAnthropicに対しバグ報告やフィードバック送信（👉/👎評価や不具合内容の報告など）を行った場合、その際のやり取りは「フィードバックデータ」として保存されることがあります¹⁰。Anthropicは**フィードバックデータを最大10年間保管し**（ユーザIDとの関連は分離の上で）サービス改善の分析に利用する可能性があります²⁷²⁵。このフィードバックデータについては「モデル訓練に使用する場合がある」とプライバシー通知に記載がありますが²⁵、ここで言うモデルは主に**サービス改善用の内部モデル**であり、ユーザ固有のコードや会話内容が無断で外部公開モデルに学習されることはありません。Anthropicはフィードバック活用にあたり**個人や組織を特定できない形に匿名化**した上で、モデルの応答品質向上やユーザ行動分析に役立てると説明しています²⁵。
- **矛盾する情報の整合:** 一部で「Claude Codeの利用に際して受け入れた提案や会話内容はフィードバックと見なされ、モデル改良に使われうる」との記述が確認されています²⁸。これはCLI内部の隠れたシステムメッセージ中での文言ですが、**公式ポリシーとの齟齬**があります。Anthropicはこの点についてドキュメントで明確に「Claude Codeのフィードバックはモデル学習には用いない」と述べており⁴、より上位の規約でも学習不利用を保証しているため²、ユーザ側としては**公式の契約・ポリシーの方針（＝学習用途には使わない）**を信頼して良いでしょう。実際、Anthropicもフィードバック利用に関する説明を随時アップデートしており、現在は「明示的な報告やオプトインがない限りユーザデータをモデル訓練しない」ことを消費者向けにも明言しています²⁴。

以上より、**通常のClaude Code利用において、入力した機密コードやデータがAnthropic側のAIモデルに学習取り込みされてしまうリスクは極めて低い**と評価できます。Anthropicは競合他社（例：OpenAIのChatGPTなど）と同様に、企業顧客データの機密性維持を重視しており、契約上も技術上もそれを担保する措置を講じています。

第三者提供・社外漏洩のリスク評価（Slack連携等を含む）

Claude Codeを企業で利用開始するにあたり懸念されるのは、**社内のコードやデータが第三者に渡ったり外部に漏洩するリスク**です。調査の結果、Anthropic公式情報によれば以下のような点が確認できました。

- **データ送信先（基本）**：Claude Codeはいずれの形態でもクラウド上のAnthropic AIサービスを利用するため、**ユーザの入力データはインターネット経由でAnthropicに送信**されます。つまり、コードや会話内容は社内ネットワークの外に出て**Anthropic社のサーバ上で処理・一時保存**されます。この時点で物理的には社外漏洩と言えますが、送受信はHTTPS/TLSによる暗号化で保護され²³、Anthropic社内でも厳重なアクセス制御下に置かれるため⁷、内容が外部に見られるリスクは低減されています。またAnthropicは**データ処理者（プロセッサ）**として契約上ユーザデータを適切に保護・管理する義務を負い、**ユーザの指示に従ってのみデータを扱うことが保証**されています²⁹。さらに「**顧客データを第三者に販売・共有しない**」「**サービス提供以外の目的で保持・利用しない**」とも明記されており⁶、無断で社外に提供される可能性は極めて低いです。
- **Slack連携時の留意点**：Slack上でClaudeを利用する場合、会話内容はSlackのサーバにも通常のメッセージとして保存されます。したがって、**Slack社（およびSlackシステムを利用する管理者）**が物理的にそのデータにアクセス可能な環境になります。ただしSlackはエンタープライズ向けに高水準のセキュリティ対策（データ暗号化、アクセス権管理、監査ログ、必要に応じたカスタムデータ保持ポリシーなど）を提供しており、多くの企業が機密情報をやり取りするコラボレーション基盤として利用しています。Claudeアプリ自体も**Enterprise Grid専用**で提供されているため、セキュリティやデータ管理に厳格な環境でのみ動作します¹³。Anthropic側では、Slack経由の会話データについて**対象ワークスペース外への共有は行わず、また前述の通り学習利用も行いません**³。Claudeボットは招待されたチャンネル/DM内のメッセージしか読めず²²、他のチャンネルの情報が漏洩する心配もありません。**想定されるリスク**としては、Slack上に投稿した内容がそのワークスペース内の他メンバーに見られること（＝社内の人間には共有される）や、Slack管理者によるエクスポート対象になることが挙げられます。しかしこれは通常のSlack利用と同じ範囲のリスクであり、Claude連携特有の追加リスクではありません。企業としてはSlack利用ポリシー（機密情報を投稿してよい範囲など）に従い、Claudeとの対話内容も管理すれば十分対応可能です。
- **CLI/GitHub利用時の留意点**：CLIツールやGitHub Actions経由の場合、データは主にAnthropic社と直接やり取りされます。GitHub連携の場合はGitHub社のクラウド上でも処理が走りますが、もともとリポジトリにコードを置いている時点で**GitHub社も信頼する第三者**とみなせるため、追加の漏洩リスクは大きくありません。Anthropic CLIでは、ユーザのローカルコードベースを解析するためClaudeがファイル内容を読み取りますが、その際に**該当部分のコードやメタデータがAnthropicクラウドに送信**されます。結果的に**社外（Anthropic側）にコード断片が渡る形**になるため、社内規定で「機密コードをクラウドサービスに送ってはならない」等のルールがある場合は抵触しないか確認が必要です。しかし前述のようにAnthropic側では暗号化やアクセス制限、短期の自動削除運用で対応しており²³¹⁴、**Anthropic社以外の第三者（他の顧客や不正な外部者）にコードが漏洩する可能性は極めて低い**と考えられます。Anthropicは内部でセキュリティ対策を重層的に実施しており、SOC2やISO27001の監査も受けているため、自社スタッフによる不正持ち出しや外部からの侵入リスクも抑えられています（詳細は次項）。
 - なお、CLI利用時に発生する**テレメトリデータ**（使用状況やエラーログ）はAnthropicが利用する外部サービス（例: Sentry＝エラー追跡サービス）に送信される場合があります¹⁵。これにはコマンド実行時の環境情報や一部ログが含まれますが、テレメトリにもAnthropicのDPAが適用され、サブプロセッサであるサービス提供会社にも守秘義務契約を締結した上で利用しています³⁰。エラーログ等にコードのパスや一部が含まれる可能性はありますが、これらはバグ修正目的で限定的に用いられ、長期間保存・第三者共有はされません。
- **総合評価**：第三者提供や漏洩のリスクという観点では、Claude Codeは**クラウドサービスとして一般的に講じられるべき対策をほぼ網羅**しています。データの暗号化や契約上の守秘義務は当然として、保存期間の短縮、アクセス制御、サブプロセッサ管理など、企業データを扱う上での安全管理措置が公式に示されています。完全なオンプレミス提供ではないため、どうしても「社外への一時預託」は

避けられませんが、Anthropicは信頼性の高いクラウドベンダーとして位置付けられます。むしろ注意すべきは**ユーザ側の取り扱い**で、例えばSlackにコード断片を貼り付ける場合はそのチャンネルが適切な公開範囲か、またClaudeに社外秘のデータを入力する際はその必要性を吟味する、といった内部統制の方が重要です。Anthropic自体は契約遵守を公言しており、違反すれば法的責任が生じる立場にあるため、**企業としてはAnthropicを他の主要クラウドサービス同様に信頼しつつ、自社内の情報管理ポリシーに沿って使うことで十分リスクに対処できるでしょう。**

企業利用における安全性評価のポイント

Anthropic社が公開している公式情報（プライバシーポリシー、セキュリティドキュメント、FAQ、開発者向けガイド等）から、**企業でClaude Codeを導入する際に留意すべき安全性に関する材料**を以下に整理します。

- **契約上のデータ保護保証:** 前述のとおり、Anthropicは契約において顧客データの機密保持と非公開利用を明記しています。**入力コードや会話の権利はユーザに属し、Anthropicが無断利用しないことが保証されています**¹。このため、ソースコードなど知的財産の扱いについて法的な懸念が少なく、社内規定上も問題になりにくいでしょう。
- **データの自動削除と保持期間:** Anthropicは**標準で30日以内**に入力・出力データをバックエンドから削除する運用を取っています¹⁴。長期にわたって顧客データを保持しないことで、万一Anthropic側で障害や侵害が起きた場合でも過去データの大量流出リスクを減らしています。エンタープライズ契約では、必要に応じて**保持期間のカスタマイズ**（さらに短縮や即時削除）も可能です^{31 32}。ただしClaude Code（ベータ版）やClaude for Work等、一部製品には**ゼロ保持契約(ZDR)**が標準適用外である点に注意が必要です³³。ZDR（入力出力を保持しない契約）は基本的にAPI利用にのみ適用されますが、Claude Codeについては「明示的に同意しない限り適用外」とされています³³。従って、どうしても**データを一切保持させたくない場合はAPI経由での利用**を検討する、もしくはAnthropicとの個別契約で条件を確認することになります。
- **セキュリティ認証・法令遵守:** Anthropicは第三者機関の監査・認証を受けており、**SOC 2 Type II**（サービス組織統制基準）や**ISO/IEC 27001:2022**（情報セキュリティ管理）、さらにAI分野の新標準である**ISO/IEC 42001:2023**（AIマネジメントシステム）などを取得しています³⁴。また**HIPAA**（医療情報保護）対応のオプションも提供可能（医療分野向けのBAA契約締結）と公表しています³⁴。これらはAnthropicが国際的なセキュリティ基準に準拠してデータ保護対策を実施している裏付けと言えます。例えばSOC2報告書ではアクセス制御や暗号化運用、脅威検知プロセスなど詳細な管理策が検証されますが、Anthropicはそうした監査にも合格しています。さらにGDPRなど各国のプライバシー法にも準拠したデータ処理を行っていることがプライバシーポリシーで示されています³⁵。
- **技術的なデータ保護措置:** Anthropicは**データ暗号化とアクセス制御**を徹底しています。保存データはAES-256等で強力に暗号化され、通信もTLS1.2以上で保護²³されています。内部的には**RBAC（ロールベースアクセス制御）**により最小権限の原則で社員アクセスを管理し、多要素認証(MFA)やデバイス管理によって不正アクセスを防いでいます^{36 37}。またAnthropicは**年次で独立監査人によるセキュリティ評価**を受けており、その結果（SOC2報告書等）はエンタープライズ顧客に開示可能としています³⁸。これにより、企業側でもAnthropicの安全対策状況を把握しやすくなっています。
- **サブプロセッサ管理:** 前述の通り、Anthropicは利用する下請けサービス（例えばデータセンターやログ解析サービス）とも契約上厳格なデータ保護義務を課しています³⁰。新たなサブプロセッサを追加する場合は顧客への事前通知と異議申立ての機会を提供するなど、透明性のある運用を行っています³⁹。このため、Claude Code利用中に例えばAnthropicが別のクラウド業者を使うような場合も、企業顧客はその情報を把握してリスク評価できます。
- **内部不正や誤動作への対策:** Anthropicは従業員に対するセキュリティ教育や契約も重視しています⁴⁰。全従業員と機密保持契約(NDA)を結び、入社時・定期的にセキュリティトレーニング（ソーシャルエンジニアリング対策やデータ取り扱い等）を実施することで、内部からの情報漏洩リスクを抑えています⁴⁰。また万一の**セキュリティインシデント発生時の対応計画**も策定されており、インシデント発生後48時間以内の通知や影響範囲の調査・報告義務を負っています^{41 42}。このような体制により、企業が安心してデータを預けられるよう配慮されています。

- ・**プロダクト自体の安全機能:** Claude Codeツールそのものにも、安全に配慮した設計があります。例えば**権限システム**により、Claudeが勝手にファイルを書き換えたりコマンドを実行したりしないよう必ずユーザの確認を求める仕組みがあります⁴³⁴⁴。具体的には「読み取り系の操作」は自動実行できますが、「シェルコマンド実行」や「ファイル修正」はユーザの**“Yes”承認がないと実行されない**ようになっています⁴³。さらに危険性の高い操作（任意の外部URLへのアクセスなど）は内部でブロックリストに登録されており、たとえユーザが要求してもClaudeが拒否する場合があります⁴⁵。これらの措置により、開発環境でClaude Codeを動かす際に**誤って環境を破壊したり機密情報を外部送信したりしない**ようリスク低減が図られています。企業で利用する場合も、管理者がこの権限設定を調整したりログをモニタリングできるため⁴⁶、社内ポリシーに沿った安全な運用が可能です。
- ・**総合的な評価:** 以上の材料を総合すると、Claude Code（および関連するClaudeアプリ）は**企業利用に耐える高いプライバシー・セキュリティ水準**を備えていると言えます。Anthropic公式の情報からは、データの取り扱いにおいて**「顧客のデータは顧客のもの」**という原則が貫かれており、それを技術的・組織的手段で支えていることが読み取れます。¹⁶ 特に、競合他社サービスと比べても**データ保持期間の短さや明確な非学習ポリシー**は優れており、機密コードを扱う企業にとって有利な点です。⁴¹⁴ もっとも、自社の機密情報を扱う際には最終的に**自社内の運用ルール整備**も不可欠です。他クラウドサービス利用時と同様、社内規定に従って適切な情報だけをAIに提供し、不要な個人情報や秘密情報は入力しない、といったガイドラインを設けることで、Claude Codeを安全かつ有効に活用できるでしょう。

注意事項まとめ（箇条書き）：

- ・Anthropicは**ユーザ提供コードを自社のAI学習に使用しない**ポリシーを公表しており、契約上も保証されています²。機密データがモデルに蓄積される懸念は低いですが、**フィードバックとして提供した場合のみ例外的にモデル改善分析に使われる**可能性があります²⁵。
- ・**Slack連携**では会話がSlack社サーバにも保存されるため、**Slack利用に関する既存の社内ポリシー**（情報共有範囲や保持期間）を遵守してください。Claudeは招待された場所以外の情報を見ない設計であり²²、AnthropicもSlack経由データを短期保持・非学習利用としています³。
- ・**CLI/GitHub利用**ではコードがAnthropicクラウドに送信されます。**通信は暗号化**され²³、Anthropic内部でも厳格に管理されていますが、社内規則でクラウドサービスへのコード持ち出し制限がある場合は適合性を確認してください。AnthropicはSOC2やISO27001認証取得済みであり³⁴、多層防御を実施しているため、一般的なクラウドサービスと同程度以上に信頼できると考えられます。
- ・Anthropicの**データ保持期間はデフォルト30日**と短めですが¹⁴、機密度に応じて**不要な会話は早期に削除**するなど、ユーザ側でもコントロール可能です（Claude for Workやコンソールでは履歴削除機能あり⁴⁷）。エンタープライズプランでは必要に応じて保持期間の調整も相談できます³¹。
- ・**全社的なセキュリティ評価**として、Anthropicは**「顧客データの安全管理」に十分な投資と配慮をしている企業**と言えます。その上で、社内システム部門としてはClaude Code導入に際し、社内Dev環境との統合方法（例: オフライン環境では使えない、インターネット接続が必要¹⁵）や、エンジニアへの教育（機密データをむやみにAIに入力しない等）について準備すると良いでしょう。これらを踏まえれば、Claude Codeは**企業の開発業務において有益かつ安全に利用できるツール**となるでしょう。

【参考文献・出典】

- ・Anthropic社 Privacy Policy（プライバシーポリシー）⁹²⁴
- ・Anthropic社 Commercial Terms of Service（商用利用規約）¹⁴⁸
- ・Anthropic社 Claude in Slack FAQ⁴⁹³
- ・Anthropic社 Claude Code README（GitHub）⁵⁰⁷
- ・Anthropic社 Data Processing Addendum（データ処理契約）⁶⁵¹
- ・Anthropic社 How long do you store my data?（データ保持期間に関するFAQ）¹⁴
- ・Anthropic社 Zero Data Retention (ZDR)記事³³
- ・Anthropic社 Security & Compliance FAQおよびTrust Center資料³⁴²³
- ・Anthropic社 Claude Code 開発者ドキュメント（権限システム・セキュリティ）⁴³⁴⁴

1 2 5 11 48 **Commercial Terms of Service \ Anthropic**

<https://www.anthropic.com/legal/commercial-terms>

3 13 20 21 22 49 **Claude in Slack \ Anthropic**

<https://www.anthropic.com/claude-in-slack>

4 7 50 **GitHub - anthropics/claude-code: Claude Code is an agentic coding tool that lives in your terminal, understands your codebase, and helps you code faster by executing routine tasks, explaining complex code, and handling git workflows - all through natural language commands.**

<https://github.com/anthropics/claude-code>

6 8 23 29 30 37 38 39 40 41 42 51 **Data Processing Addendum \ Anthropic**

<https://www.anthropic.com/legal/data-processing-addendum>

9 10 **Privacy Policy \ Anthropic**

<https://www.anthropic.com/legal/privacy>

12 28 **Unminified prompts and tool definitions for Claude Code · GitHub**

<https://gist.github.com/transitive-bullshit/487c9cb52c75a9701d312334ed53b20c>

14 31 32 47 **How long do you store my organization's data? | Anthropic Privacy Center**

<https://privacy.anthropic.com/en/articles/7996866-how-long-do-you-store-my-organization-s-data>

15 43 44 45 46 **Manage permissions and security - Anthropic**

<https://docs.anthropic.com/en/docs/claude-code/security>

16 17 18 19 **GitHub Actions - Anthropic**

<https://docs.anthropic.com/en/docs/claude-code/github-actions>

24 25 26 27 **Is my data used for model training? | Anthropic Privacy Center**

<https://privacy.anthropic.com/en/articles/10023580-is-my-data-used-for-model-training>

33 **I have a zero data retention agreement with Anthropic. What products does it apply to? | Anthropic Privacy Center**

<https://privacy.anthropic.com/en/articles/8956058-i-have-a-zero-data-retention-agreement-with-anthropic-what-products-does-it-apply-to>

34 **What Certifications has Anthropic obtained? | Anthropic Privacy Center**

<https://privacy.anthropic.com/en/articles/10015870-what-certifications-has-anthropic-obtained>

35 36 **Guide to Cloud Data Loss Prevention for Claude**

<https://www.strac.io/blog/cloud-data-loss-prevention-for-claude>